

都市再生整備計画事業 事後評価シート
関市中央二期地区

令和4年1月

岐阜県関市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県	市町村名	関市		地区名	関市中央二期地区		面積	235ha			
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	937	国費率	0.421				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	(道路)西本郷一ツ山線第2工区、(道路)市道1-319号、(公園)安桜山健康パーク、(高質空間形成施設(緑化施設等))【刃物ミュージアム回廊】回廊の路、回廊の庭、(高質空間形成施設(緑化施設等))関川沿い遊歩道、(高質空間形成施設(歩行支援施設、障害者支援施設))【刃物ミュージアム回廊】屋外トイレ、(高次都市施設(地域交流センター))【刃物ミュージアム回廊】多目的ホール、(高次都市施設(地域交流センター))【刃物ミュージアム回廊】観光案内所、(高次都市施設(地域交流センター))【刃物ミュージアム回廊】刃物工房									
		提案事業	(事業活用調査)事業効果分析									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	-		-		-					
	新たに追加した事業	基幹事業	-		-		-					
		提案事業	-		-		-					
交付期間の変更	当初	平成28年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響はない。							
	変更	平成28年度～令和2年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	観光施設入場者数	人	54,662	H26	100,000	R2	33,512	△	あり	評価値の計測時期(令和2年4月～令和3年3月)には「せきてらす」がオープンしていないため、現状では目標の達成度が評価できない。また、本来であれば、「せきてらす」のオープン後に、観光施設入場者数の大幅な増加が見込まれるところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当面は観光施設入場者数の大幅な増加は見込めない。	令和4年7月
	指標2	健康づくりのしやすさ	%	34.8	H27	37.0	R2	39.0	○	あり		
指標3	居住人口	人	13,969	H27	13,323	R2	13,501	○	あり	今回のアンケート調査(令和3年9月実施)においては、安桜山公園内の展望台及び遊歩道を既に利用している回答者もあり、本事業が市民の健康づくりに寄与していることが確認できた。一方で、展望台整備の事を知らない市民も多く、市民に対するPRや、利用しやすい環境づくりが必要となる。		
									なし	各事業の実施成果として、中心市街地のにぎわいを創出し居住人口の減少を抑制することを目指している。関市中央地区の居住人口については、平成30年から令和3年まで、継続して想定した目標値より高い居住人口を維持しており、目標を達成していることから、間接的にはあるが減少を抑制する効果が得られたと判断する。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	刃物会館の年間利用者数	人	28,241	H26					今後計測予定である。	令和4年7月	
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・「せきてらす」設計ワークショップを開催。 ・ワークショップを通じて、「せきてらす」の活用方法に関する様々な提案がされ、「せきてらす」のオープン後に具体化して実践されている。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、ワークショップにて提案された各事業のアイデアを「せきてらす」を活動拠点として実施し、市民と観光客が一体となったまちづくりを目指す。 ● with コロナ時代の新しい生活様式を踏まえながら、持続的に「せきてらす」を運営・活用する仕組みづくりを確立する。				
持続的なまちづくり体制の構築	平成28年度に「安桜地域振興計画」(10年計画)を策定し、「安桜まちづくり協議会」が活動を開始。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、「安桜地域振興計画」に基づき各事業を展開し、安桜地域(中心市街地)の課題解決に向けた住民主体の活動を支援し、持続可能なコンパクトなまちづくりを推進する。					

様式2-2 地区の概要

関市中央二期地区(岐阜県関市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度
大目標: 関市の顔としてふさわしい、個性と魅力あふれるまちづくり	観光施設入場者数	単位:人	54,662	H26	100,000	R2	33,512	R2
目標1: 地域固有の産業を活かした中心市街地のにぎわい拠点の形成	健康づくりのしやすさ	単位:%	34.8	H27	37.0	R2	39.0	R2
目標2: 地区の自然資源を活かした健康増進機会の創出	居住人口	単位:人	13,969	H27	13,323	R2	13,501	R2
目標3: 中心市街地と市外を結ぶ交通ネットワークの強化・充実								

■基幹事業：公園
安桜山健康パーク





凡例
 計画区域(関市中央二期地区)
 基幹事業

■基幹事業：道路
市道1-319号線



■基幹事業：高質空間
関川沿い遊歩道



■基幹事業：道路
西本郷一ツ山線第2工区



刃物ミュージアム回廊修景整備

■基幹事業：高次都市
観光案内所



■基幹事業：高次都市
多目的ホール



■基幹事業：高次都市
刃物工房



■基幹事業：高次都市
屋外トイレ



■基幹事業：高質空間
回廊の路、回廊の庭



まちの課題の変化	<p>「せきてらす」の整備により、地域固有の産業を活かした中心市街地の“にぎわい拠点”が形成できたが、中心市街地の回遊性をさらに向上させ、拠点施設を中心ににぎわい創出を図ることが課題。</p> <p>・安桜山公園の展望台の整備により、地区の自然資源を活かした健康増進機会の創出ができた。今後も関川や桜並木など、まちなかに近い自然資源を活かした健康増進機会を充実させる必要がある。</p> <p>・西本郷一ツ山線の整備により、中心市街地と市外を結ぶ交通ネットワークを強化することができたが、安全・防犯面での要望が見られる。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>・人口減少や少子高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりを推進し「歩いて楽しいまち」として歩行者ネットワークを形成する。</p> <p>・「せきてらす」を拠点として、まちなかに点在する商業施設や関善光寺、関駅や文化会館、などの施設を「遊歩道」でつなぎ、回遊性を向上させる。</p> <p>・安桜山展望台をPRするとともに、まちなかの拠点をつなぎ、市民が活動できる空間を確保する。</p> <p>・関川や安桜山周辺の四季折々の自然や歴史・文化資源の“つながり”を強化するための「遊歩道」、市民の交流の場となる「ふれあい広場」を整備する。</p> <p>・利用状況を踏まえながら、踏切の信号待ち時間の改善を行うとともに、周辺の交通ネットワークの充実を図る。</p> <p>・「遊歩道」の整備により、安全・快適で楽しく歩きたくなる歩行空間を整備し、街灯、防犯灯施設の整備による安全性向上を図る。</p>

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(計画期間)	●		(当初計画)平成28年度～平成31年度	(第2回変更)平成28年度～平成32年度(令和2年度)	事業計画の延伸のため

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	観光施設入場者数	人	令和2年度(4月～3月)の観光施設年間利用者数の内、関鍛冶伝承館、濃州関所茶屋、フェザーミュージアムの3施設の年間利用者数の合計により算出する。	74,819	H18	54,662	H26	100,000	R2	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定 見込み ●	33,512	事後評価	
指標2	健康づくりのしやすさ	%	「中心市街地(関市中央二期地区)のまちづくりアンケート」において本事業の整備後の変化の感じ方について、「ウォーキングなど健康づくりがしやすくなったか」の設問に対する5段階評価において上位2段階「そう思う、まあそう思う」の回答者数の割合を計測する。	-	-	34.8	H27	37.0	R2	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	39.0	事後評価	
指標3	居住人口	人	令和3年度の地区内居住人口として、令和3年4月1日時点における関市中央地区の居住人口を計測する。	-	-	13,969	H27	13,323	R2	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	13,501	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	刃物ミュージアム回廊整備「せきてらす」の相乗効果により周辺観光施設の入場者数増加を見込んでいたところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の感染対策による観光施設入場者数の大幅な減少のため、目標達成ができていない。	「せきてらす」のオープンが、令和3年3月19日であるため、令和2年度の観光施設入場者数では、「せきてらす」整備後の事業効果が反映されていないため、令和2年度の評価値を見込み値とする。令和3年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響のため、当面は目標値までの回復は見込めない。
指標2	今回のアンケート調査(令和3年9月実施)の評価値が目標値を上回っているだけでなく、安桜山公園内の展望台及び遊歩道を既に利用しているとの自由回答も見られ、本事業は市民の健康づくりに貢献していることが確認されたため。	
指標3	中心市街地において都市再生整備事業等を実施することで、平成27年度から令和3年度まで継続して人口減少率を抑えることができている、目標値の達成に至っている。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	刃物会館の年間利用者数	人	令和2年度(4月~3月)の観光施設年間利用者数の内、刃物会館の年間利用者数を事後評価時の評価値とする。	-	-	28,241	H26	モニタリング			指標1の3施設は、本事業で整備した「せきてらす」周辺の観光施設であり、本事業の相乗効果も含めた評価となっている。一方、『刃物会館』は「せきてらす」の1施設として移転して再整備される施設であるため、直接的に「せきてらす」の事業効果を測定できるため。	新型コロナウイルス感染症の影響が残る間は、従来のような年間利用者数の回復を見込むことは難しい。
								事後評価				

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

中心市街地(関市中央二期地区)のまちづくりに関するアンケート調査により、以下の変化がみられた。
 ◆現状に関する評価として「安全・安心な道路環境が整ってきた」と感じている人の割合
 (平成27年11月調査)41.3% ⇒ (令和3年9月調査)61.7%

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「せきてらす」設計ワークショップ	予定どおり実施した	【実施頻度・時期】 第1回：平成30年3月17日、第2回：平成30年6月9日 第3回：平成30年7月21日、第4回：平成30年8月25日 【実施結果】 ワークショップを通じて、「せきてらす」の整備概要やオープンまでのスケジュールを周知することができただけでなく、「せきてらす」の活用方法に関する様々な提案がされた。これらの提案については、「せきてらす」のオープン後に具体化して実践されている。	・引き続き、ワークショップにて提案された各事業のアイデアを「せきてらす」を活動拠点として実施し、市民と観光客が一体となったまちづくりを目指す。 ・with コロナ時代の新しい生活様式を踏まえながら、持続的に「せきてらす」を運営・活用する仕組みづくりを確立する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
安桜まちづくり協議会の発足及び活動	予定どおり実施した ●	平成28年度に「安桜地域振興計画」(10年計画)を策定し、活動を開始。	【まちづくり組織名】 安桜まちづくり協議会 【組織の構成】 地域振興計画を推進するために「施設管理部」「交流活動部」「学習活動部」「福祉活動部」「広報活動部」の5つの部で事業を実施。	・引き続き、「安桜地域振興計画」に基づき各事業を展開し、安桜地域(中心市街地)の課題解決に向けた住民主体の活動を支援し、持続可能なコンパクトなまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関市中央二期地区 都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	観光課 土木課	令和3年11月24日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3	
指標名		健康づくりのしやすさ		居住人口	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(道路)西本郷一ツ山線第2工区	—	今回のアンケート調査(令和3年9月実施)においては、安桜山公園内の展望台及び遊歩道を既に利用している回答者もあり、本事業が市民の健康づくりに寄与していることが確認できた。一方で、展望台整備の事を知らない市民も多く、市民に対するPRや、利用しやすい環境づくりが必要となる。	○	都市再生整備計画の中では、各事業の実施成果として、中心市街地のにぎわいを創出し居住人口の減少を抑制することを目指している。関市中央地区の居住人口については、平成30年から令和3年まで、継続して想定した目標値より高い居住人口を維持しており、目標を達成していることから、間接的にはあるが、減少を抑制する効果が得られたと判断する。
	(道路)市道1-319号線	—		○	
	(公園)安桜山健康パーク	◎		○	
	(高質空間形成施設(緑化施設等))【刃物ミュージアム回廊】回廊の路、回廊の庭	◎		○	
	(高質空間形成施設(緑化施設等))関川沿い遊歩道	◎		○	
	(高質空間形成施設(歩行支援施設、障害者支援施設))【刃物ミュージアム回廊】屋外トイレ	—		○	
	(高次都市施設(地域交流センター))【刃物ミュージアム回廊】多目的ホール	—		○	
	(高次都市施設(観光交流センター))【刃物ミュージアム回廊】観光案内所	—		○	
(高次都市施設(観光交流センター))【刃物ミュージアム回廊】刃物工房	—	○			

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も継続して、安全・安心な「みち」や「広場」を整備し歩行者ネットワークを充実することが求められる。	各事業の実施効果を持続的に発現されることで、今後、中心市街地のにぎわいが戻り、居住人口の減少を抑制し、中心市街地の居住人口が維持されることを期待する。
-------	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標		
指標名		観光施設入場者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路・西本郷一ツ山線第2工区	—	指標1の計測時期(令和2年4月～令和3年3月)には「せきてらす」がオープンしていないため、現状では目標の達成度が評価できない。また、本来であれば、「せきてらす」のオープン後に、観光施設入場者数の大幅な増加が見込まれるところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当面は観光施設入場者数の大幅な増加は見込めないと思われる。	Ⅲ			
	道路・市道1-319号線	△					
	公園・安桜山健康パーク	△					
	高質空間形成施設(緑化施設等)・【刃物ミュージアム回廊】回廊の路、回廊の庭	△					
	高質空間形成施設(緑化施設等)・関川沿い遊歩道	△					
	高質空間形成施設(歩行支援施設、障害者支援施設)・【刃物ミュージアム回廊】屋外トイレ	△					
	高次都市施設(地域交流センター)・【刃物ミュージアム回廊】多目的ホール	△					
	高次都市施設(観光交流センター)・【刃物ミュージアム回廊】観光案内所	△					
高次都市施設(観光交流センター)・【刃物ミュージアム回廊】刃物工房	△						

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>令和3年3月の「せきてらす」のオープン後には、新型コロナウイルス感染症対策の制限下で、徐々にイベント等は再開されている。今後のコロナ収束により、徐々に観光施設入場者数が増加することが期待される。また、「せきてらす」を中心として周辺施設との回遊性が発揮されれば、より多くの観光施設入場者数の増加は期待できる。また、市外からの観光客の動向についても調査し、活用するよう検討する。</p>
--------------------------	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関市中央二期地区 都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	観光課 土木課	令和3年11月24日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
暮らしやすさのさらなる向上を 図るため、まちの活力向上や にぎわいの創出	「せきてらす」の整備により、地域固有の産業を活かした 中心市街地の“にぎわい拠点”が形成できた。(新型コロナ 感染症拡大の影響で、施設の利用制限やイベント中 止により、観光施設入場者数は目標未達)	中心市街地の商業施設の衰退、まちなかの活力の低下に歯止 めをかけるため、中心市街地の回遊性を向上させ、拠点施設 を中心ににぎわい創出を図ることが課題。	
子どもからお年寄りまで住民 が健康で明るく暮らせる地域 をつくるため、健康づくりを促 進する環境の創出	安桜山公園の展望台の整備により、地区の自然資源を 活かした健康増進機会の創出ができた。(「健康づくり のしやすさ」としての評価が上がった。)	誰もが日常的に健康づくりができるように、安桜山展望台だけ でなく、関川や桜並木など、まちなかに近い自然資源を活かし た健康増進機会を充実させることが課題。	
地区内外の人々の交流を促 進するため、拠点間の連携強 化・利便性向上による交通 ネットワークの充実	西本郷一ツ山線の整備により、中心市街地と市外を結 ぶ交通ネットワークを強化することができた。	「夜、歩くには道が暗くて怖い」といった安全・防犯面での要望も あり、まちなかは、楽しく安全な歩行空間とすることが課題。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	まちの活力向上やにぎわいの創出	人口減少や少子高齢化を見据えたコンパクトなまちづくりを推進し「歩いて楽しいまち」として歩行者ネットワークを形成する。	・「歩いて楽しい空間づくり」(遊歩道整備事業)
	健康づくりを促進する環境の創出	安桜山展望台をPRするとともに、まちなかの拠点をつなぎ、市民が活動できる空間を確保する。	・「歩いて楽しい空間づくり」(遊歩道整備事業) ・「ふれあい広場の整備」(遊歩道整備事業)
	拠点間の連携強化・利便性向上による交通ネットワークの充実	利用状況を踏まえながら、踏切の信号待ち時間の改善を行うとともに、周辺の交通ネットワークの充実を図る。	

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	回遊性の向上による中心拠点のにぎわい創出	「せきてらす」を拠点として、まちなかに点在する商業施設や関善光寺、関駅や文化会館、などの施設を「遊歩道」でつなぎ、回遊性を向上させる。	・「歩いて楽しい空間づくり」(遊歩道整備事業) ・「にぎわい横丁創出事業」 ・「古民家改修事業」
	まちなかの自然資源を活かした健康増進機会の充実	関川や安桜山周辺の四季折々の自然や歴史・文化資源の“つながり”を強化するための「遊歩道」、市民の交流の場となる「ふれあい広場」を整備する。	・「歩いて楽しい空間づくり」(遊歩道整備事業) ・「ふれあい広場の整備」(遊歩道整備事業)
	まちなかを楽しく安全に歩ける歩行空間の創出	「遊歩道」の整備により、安全・快適で楽しく歩きたくなる歩行空間を整備し、街灯、防犯灯施設の整備による安全性向上を図る。	・「歩いて楽しい空間づくり」(遊歩道整備事業) ・「街灯・防犯灯整備事業」

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画						
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項				
指標1	観光施設入場者数	人	54,662	H26	100,000	R2	確定	●	33,512	△	あり	令和4年7月	令和4年6月中旬に確定予定である令和3年度(4月～3月)の観光施設年間利用者数を用いる。				
						見込み	●			なし	●						
指標2	健康づくりのしやすさ	%	34.8	H27	37.0	R2	確定	●	39.0	○	あり						
							見込み				なし						
指標3	居住人口	人	13,969	H27	13,323	R2	確定	●	13,501	○	あり						
							見込み				なし						
指標4							確定				あり						
							見込み				なし						
指標5							確定				あり						
							見込み				なし						
その他の数値指標1	刃物会館の年間利用者数	人	28241	H26			確定					令和4年7月	令和4年6月中旬に確定予定である令和3年度(4月～3月)の観光施設年間利用者数を用いる。				
							見込み	●									
その他の数値指標2							確定										
							見込み										
その他の数値指標3							確定										
							見込み										

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標2 健康づくりのしやすさと、指標3 居住人口については、目標を達成した。	観光施設入場者数に限らず、新型コロナウイルスの影響については、今後も継続すると見込まれるため、それを念頭に置きつつ目標値を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	指標1 観光施設入場者数については、「せきてらす」のオープン時期が年度末であったこと、かつ新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、目標を達成できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	「安桜山健康パーク」の整備については、アンケートの自由記述欄に実際の利用者の声が寄せられており、指標2 健康づくりのしやすさに対してより直接的な効果が見られたと考えられる。	各事業との整合を意識した数値目標を検討する。
	うまくいかなかった点	指標3 居住人口については、各事業に対する総合評価指標として設定したため、どの事業が指標3により影響を与えているのか分析が困難であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・「せきてらす」設計ワークショップの実施により、活用方法に関する様々な提案がされ、実際の施策にも繋がっている。 ・安桜地域振興計画を策定と、安桜まちづくり協議会の活動により、地域住民が主体となったまちづくりが行われている。	他地区においても、地域住民が主体的にまちづくりに参加できるような仕組みを取り入れる必要がある。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・関市歩いて楽しい中心拠点地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和3年12月6日～ 12月20日	令和3年12月6日～ 12月20日	都市計画課へ郵便、 FAX、電子メールまたは 窓口への持参	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	都市計画課窓口(土日祝日除く)にて閲覧	令和3年12月6日～ 12月20日	令和3年12月6日～ 12月20日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	藪下武司(学校法人中部学院大学 教授)	令和4年1月11日	都市計画課	関市都市再生整備計画事業評価委員会規則	独自に設置
その他の委員	横山伸治(関市観光協会 事務局長) 清水宗夫(安桜まちづくり協議会 会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標2「健康づくりのしやすさ」の「健康づくり」の文言は抽象的に感じる。健康によいことの具体的な情報が見えた方がよい。 ・目標値を達成することに満足せず、どれだけ超えられるかが重要であり、本事業のようなハード整備と施設間の連携を促すようなソフト的な施策を、両輪で実施する必要がある。 →施設間の連携を促す施策について、今後のまちづくり方策(添付様式5-③等)に記載済み。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・指標1の「観光施設入場者数」の観光客に関する分析として、今後は、市外のどういった地域からの観光客が多いのかを調査すると良い。 →今後の活用に、「市外からの観光客の動向についても調査し、活用するよう検討する」を追記した。(添付様式4-③の文章を修正) ・指標3の「居住人口」について、対象地区の年齢構成を考慮して考察を行うとよい。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・様々な施策によって人口を増加させ、まちを活性化させる必要があると改めて感じた。今後は外からの居住者が増えるのではないかの期待を持つことができた。 ・人口減少を食い止めるためには、ハード・ソフトの対策も必要であるが、福祉や子育て等も含めたより広義的なまちづくりの視点も必要と思う。住み続けたい、外から住みたいと思えるまちであることが大切で、人が集まってくるような魅力のある住環境をつくる必要がある。観光地としての魅力は、住環境としての魅力にも繋がる部分があるので、そういった考え方をもちながら整備を続けてもらいたい。関市に遊びに来る人々や、関市に住みたいと思える人々が増えるように、継続して事業を推進してほしい。 ・「歩いて楽しい」との文言から、郡上や高山がイメージされるが、それらと違った整備が行えれば面白いと思う。本町BASEや刃物会館等の公共施設間を全て歩く想定となると、整備が足りない箇所もあり、そこが課題と思う。
	フォローアップ	・フォローアップとして記載された指標以外にも、指標1や指標3については今後も推移を観察する必要がある。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・本町の「古民家あいせき」の利用活用について大学の学生に声をかけている。より具体的な事項が分かれば、大学側から学生にアプローチ可能なので、何かあれば教えていただきたい。 ・本町BASEの期間延長を検討してもらいたい。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

せきしちゅうおうにきちく
関市中央二期地区

(第4回変更)

岐阜県 関市

令和2年4月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	■
都市再生整備計画事業	■
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	せき 関市	地区名	せきしちゆうおうち まちく 関市中央二期地区	面積	235 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 2 年度				

目標 ◇関市の顔としてふさわしい、個性と魅力あふれるまちづくり 目標1： 地域固有の産業を活かした中心市街地のにぎわい拠点の形成 目標2： 地区の自然資源を活かした健康増進機会の創出 目標3： 中心市街地と市外を結ぶ交通ネットワークの強化・充実							
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本地区は、関市(以下、本市という)の門前町、職人町、街道筋の商店街といった成り立ちを持つ、歴史性の豊かな市街地と、安桜山や関川、新長谷寺、関善光寺など、豊富な地域資源を有する中心市街地である。 また、図書館をはじめとするわかくさ・プラザや市役所などの公共公益施設や、関鍛冶伝承館や刃物会館といった文化・商業施設が立地しており、多様な都市機能が集積する本市の都市活動の拠点として発展してきている地域である。 本地区のまちづくりの状況においては、地区内の公園の再整備や保健センターの機能強化等による市民の生活環境の充実とともに、関駅西口駅前広場の整備による交通結節点の強化・充実が進むなど、中心市街地の都市拠点としての整備が進められてきている。 また、本地区に隣接する本市東部では、人口定着のための土地区画整理事業による住宅基盤整備が継続的に実施されており、本市の中央部における中心市街地として必要な都市機能の集約化と良好な住宅環境の形成に向けた整備が進められている。 しかし、都市・交流・交通等の各拠点施設の整備や人口の受け皿となる住宅市街地の整備が進められている一方で、昨今の経済情勢の変化を背景とした郊外への大型商業施設の立地等により、中心市街地の商業機能が衰退し、中心市街地の活力低下に歯止めがかからない状況にある。 そこで、さらなるにぎわいの創出を図るため、低下している中心市街地の商業・交流機能の強化や地域資源の有効活用、都市拠点や交流拠点の連携強化・交通便利性の向上を図り、関市の顔としてふさわしい、個性と魅力あふれるまちづくりを目指す。 なお、平成27年度策定予定の「関市公共施設再配置計画」において、民間事業者の活用を位置づける方針であることから、本計画においても、民間が建設する建物の一部を購入したり、民間提案を活用して施設整備を行う。 また、都市のコンパクト化を図るため、平成29年3月策定予定の立地適正化計画において、概ね20年後を見据えた持続可能な関市とするため、誰もが「通勤、通学、おでかけしやすいまち」「学び、健康づくりが楽しめるまち」「まちの中心部に魅力があり、住みたくなる・行きたくなるまち」を目指し、都市機能と居住エリアの適切な誘導のための具体的な区域設定、及び実効性のある施策を策定する。							
まちづくりの経緯及び現況 本市は、平成18年度から「関市中心市街地地区」において、まちづくり交付金制度を活用し、道路整備を中心とした事業実施による、安全で快適な交通環境の創出を図っており、平成23年度から中心市街地と東部市街地を含む「関市中央地区」において、社会資本整備総合交付金制度を活用し、住宅市街地の形成や交通結節点の整備が行われ、生活環境の充実や交通拠点の強化・充実を図っている。							
課題 ①暮らしやすさのさらなる向上を図るため、まちの活力向上やにぎわいの創出を図る必要がある。 ②子どもからお年寄りまで住民が健康で明るく暮らせる地域をつくるため、健康づくりを促進する環境の創出を図る必要がある。 ③地区内外の人々の交流を促進するため、拠点間の連携強化・利便性向上による交通ネットワークの充実を図る必要がある。							
将来ビジョン(中長期) ●関市第4次総合計画 「改革と協働で築く自立のまち」を基本理念に、伝統産業と新産業が共栄する都市形成に向けた産業都市振興施策や、市街地のにぎわい復活を計画的に推進するための市街地の活性化が図られている。 ●都市計画マスタープラン 中心市街地は、「にぎわい交流拠点」「文化交流拠点」として位置づけられており、歴史性、自然環境の活用(まちの魅力の再確認)及び商業の振興、集客性を高める仕掛けづくりによって、まちに人のにぎわいを取り戻して「楽しんで歩ける市街地づくり」を目指している。 ●刃物ミュージアム回廊修景整備基本計画 「刃物のまち関」を象徴する情報発信施設である刃物会館、関鍛冶伝承館、フェザーミュージアムは、「刃物のまち・自然と文化の散策回廊」をコンセプトに、「刃物のまち関」を感じ、市民と来訪者の双方が自然と文化を楽しめる、散策回廊の創出を図る施設として位置付けられている。							
都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 都市機能配置の考え方 ・都市機能誘導区域として、医療・福祉・子育て・行政施設などの拠点施設や生活を支える買い物施設などが集積しており、市内各所から公共交通にてアクセスしやすいなど、今後も機能を充実させていくべき市街地中心部周辺は、人口減少や空き家・空き店舗の増加が課題となっておりますが、観光資源や生活サービス施設などが集積していることから、歩いて楽しい空間、魅力ある店舗、日常的に住民が交流できる広場の充実など「にぎわい・つながりのある 歩いて楽しいまち」づくりを推進を図ります。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 中心市街地の回遊性を向上させ産業振興を促進するための情報発信施設とし、本施設周辺には、関鍛冶伝承館・春日神社の歴史文化施設や、民間が建設したフェザーミュージアムなど、「刃物のまち関」を象徴する施設が集積しており、刃物ミュージアム回廊を「中部の産業観光」「中部 北陸 昇龍道 観光」のひとつとして位置づけられるよう、観光「関」の拠点(核)として整備する。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	目標年度
観光施設入場者数	人	刃物ミュージアム回廊内の観光施設年間利用者数	にぎわい拠点施設整備及び道路整備による中心市街地のにぎわい形成や交通ネットワーク強化・充実の達成状況を、刃物ミュージアム回廊内の観光施設への入場者数の変化で評価する。	54,662	100,000	平成26年度	令和2年度
健康づくりのしやすさ	%	まちづくりアンケートにおける「ウオーキングなど健康づくりがしやすい」と回答した人の割合	住民の健康増進機会創出の達成状況を、アンケートにおける「ウオーキングなど健康づくりがしやすいか」に関する設問の5段階評価で、「そう思う、まあそう思う」と回答した人数の変化で評価する。	34.8	37.0	平成27年度	令和2年度
居住人口	人	関市中央地区の居住人口	にぎわい拠点形成や健康増進、安全・安心な交通ネットワーク強化による中心市街地の個性あふれるまちづくりの達成状況を、地区内の居住人口の変化で評価する。	13,969	13,323	平成27年度	令和2年度

整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 地域固有の産業を活かした中心市街地のにぎわい拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所、刃物工房等の整備により、本市の産業を活かした交流の場や地区の魅力を発信する拠点の創出を図る。 ・道路や歩行者空間の整備により、地区内外の人々が集まり移動しやすい拠点間の回遊ネットワークの創出を図る。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路(市道1-319号線) ・高質空間形成施設(緑化施設等)(【刃物ミュージアム回廊】回廊の路、回廊の庭) ・高質空間形成施設(緑化施設等)(関川沿い遊歩道) ・高質空間形成施設(歩行支援施設、障害者支援施設)(「刃物ミュージアム回廊】屋外トイレ) ・高次都市施設(地域交流センター)(【刃物ミュージアム回廊】多目的ホール) ・高次都市施設(観光交流センター)(【刃物ミュージアム回廊】観光案内所) ・高次都市施設(観光交流センター)(【刃物ミュージアム回廊】刃物工房) ・公園(安桜山健康パーク)
<p>整備方針2: 地区の自然資源を活かした健康増進機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道整備や、関川での遊歩道整備により、市民や来訪者の健康増進の場の形成を図る。 ・中心市街地を流れる関川などの自然資源の活用により、関市固有の自然とふれあえる場の創出を図るとともに、市民の外出機会の増加を図る。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(緑化施設等)(【刃物ミュージアム回廊】回廊の路、回廊の庭) ・高質空間形成施設(緑化施設等)(関川沿い遊歩道) ・公園(安桜山健康パーク)
<p>整備方針3: 中心市街地と市外を結ぶ安全・安心な交通ネットワークの強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の都市拠点や交流拠点間を結ぶ地区内外のアクセス性の向上を図る。 	<p>< 基幹事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路(西本郷一ツ山線第2工区) ・道路(市道1-319号線)
<p>その他</p>	

